

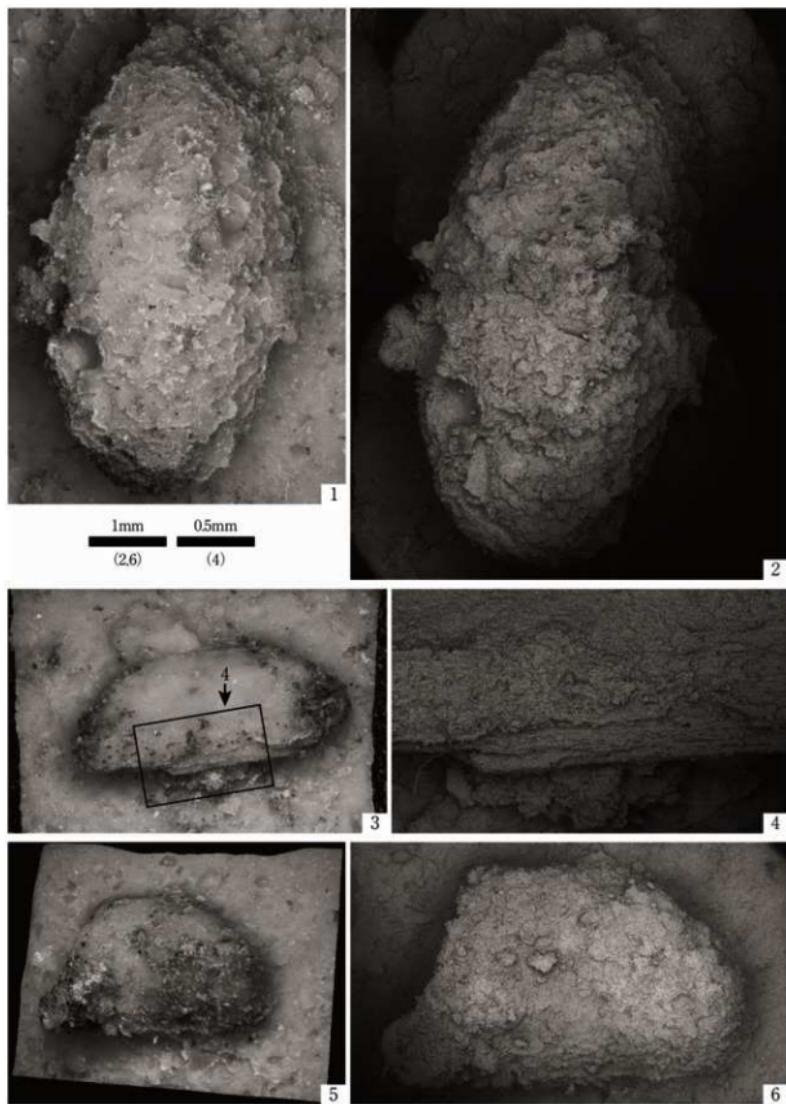
SK26土器10圧痕レプリカ (1)

1. イネ穂(外面2)(マイクロスコープ深度合成画像)
3. イネ穂(外面2)(マイクロスコープ深度3D画像)
5. イネ穂(外面2)(SEM画像)

2. イネ穂(外面2)(マイクロスコープ深度3D画像)
4. イネ穂(外面2)(SEM画像)

0.1mm 1mm
(4) (5)

図版 68



SK26土器10压痕レプリカ (2)

1. イネ穂の可能性(外面1)(マイクロスコープ深度合成画像)

3. 木材(内面1)(マイクロスコープ3D画像)

5. 不明(内面2)(マイクロスコープ3D画像)

2. イネ穂の可能性(外面1)(SEM画像)

4. 木材(内面1)(SEM画像)

6. 不明(内面2)(SEM画像)

報告書抄録

ふりがな	いづみさかしたいせき よん								
書名	泉坂下遺跡IV								
副書名	保存整備事業に伴う第3次確認調査報告書								
巻次	-								
シリーズ名	茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第23集								
編著者名	後藤 俊一、中林 香澄、萩野谷 悟								
編集機関	常陸大宮市教育委員会								
所在地	〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6								
発行機関	常陸大宮市教育委員会								
所在地	〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6								
発行年月日	平成27(西暦2015)年7月31日								
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因		
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号						
泉坂下遺跡	常陸大宮市泉坂下 918番地 外21筆	08225	大034	36° 32° 1°	140° 26° ~ 20140901 20141217	7,697	保存整備事業に伴う 第3次確認調査		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
泉坂下遺跡	墓跡 集落跡	縄文時代	土坑1基	縄文土器（鉢、小型鉢、台付鉢、浅鉢、台付浅鉢、深鉢、壺、口付土器）、土製品（土偶、土器片円盤）、石器・石製品（石棒、石劍、石刀、石鏃、石錐、磨石、敲石、管玉、石錘、磨製石斧、小型磨製石斧、砥石、独結石、石核、大型剥片）		遺跡中央やや南寄りの第10トレンドチで、晚期と考えられる土坑を確認した。再葬墓付近を含む遺跡一帯には、後・晚期の遺物が散布しており、西に寄るほど密度は高い。			
		弥生時代	再葬16基 土器棺墓4基 土坑4基 溝跡1条	弥生土器（壺、小型壺、広口壺、鉢、片口鉢、深鉢、甕、高坏、蓋）		再葬墓の密集域を、面的に広げて調査し、範囲を概ね把握した。サンプルとして第26号土坑を掘り込んで調査した。第10トレンドチで新たな再葬墓を確認し、再葬墓群は2群に分かれることを確認した。第9号溝跡は南北に伸び、再葬墓を切ることを確認した。			
	平安時代	堅穴住居跡8軒 土坑2基	土師器（壺、高台付壺、碗、高台付碗、鉢、小型鉢、片口鉢、甕、小型甕、皿、高台付皿、盤、羽釜、ミニチュア土器）、須恵器（皿、甕、大甕）、灰釉陶器（椀、小瓶）、土製品（管状土鉢、球状土鉢）、石製品（石製支脚）、石器（石製支脚）		再葬墓の密集する区域に、堅穴住居跡を確認した。再葬墓と重複する堅穴住居跡もあった。第17トレンドチで、灰釉陶器の埋納された土坑を確認した。				
		中世	土師質土器（三足土器）、青白磁（碗）						
		不明	土坑43基 溝跡4条 性格不明構造2基	土製品（泥面子）、鉄製品（鉄滓、不明）					

仕様

【紙質】本書は長期保存を考慮し、すべて中性紙を使用している。

表紙	レザック66白	215kg
見返し	上質紙	70.5kg
巻頭写真	マットコート	90kg
本扉・ごあいさつ・例言・目次・本文・付図	書籍用紙クリーム	70kg
写真図版・抄録・奥付	マットコート	90kg

【印刷】

写真図版以外はオフセット印刷（黒）

写真図版はダブルトーン印刷（スミ+セピア）スクリーン線数200線

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財発掘調査報告書第23集

泉坂下遺跡Ⅳ

保存整備事業に伴う第3次確認調査報告

発行日 平成27(2015)年7月31日

著 者 後藤 俊一, 中林 香澄, 萩野谷 悟

編集・発行 常陸大宮市教育委員会

所在地 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6

電話番号 0295-52-1111

印 刷 山三印刷株式会社